清真女学におけるムスリム女子学生の社会進出に関する意識調査と要因分析

―中国甘粛省臨夏中阿女校を事例として―

金　仙玉*

An Examination of Female Student Awareness Regarding Societal Participation at Muslim Qingzhen Schools:

A Case Study of a Linxia Chinese-Islamic Female School in Gansu Province

*JIN Xianyu**

Abstract

This research describes the Islamic education and the living conditions of students at Qingzhen Female Schools in China, which is heretofore relatively unknown. It also discusses the disparity between the educational goals of the Qingzhen Female Schools and the students' awareness. While the Qingzhen Female Schools teach the common knowledge of Shariya, students also study about gender equality education in the Islamic way. In Islam, gender equality includes equality in such fields as human rights, personality, dignity, rights for education and rights for inheritance, while at the same time it excludes the equal right for women to participate in society. Islamic society recognizes women's participation in society only when it is directly related to their role in the household.

The research findings indicate that this is also true for Linxia Chinese-Islamic Female School, which endeavors toward educating women to be both good housewives and wise mothers. Hence, the school follows a closed and restrictive system whereby students are not allowed to leave campus without teachers' permission, and must spend the entire school day on studies and praying. However, students are not content with Islamic restrictions on women's participation in society. They intend to become women who take active roles in society, and are seen to be influenced by the words of Chairman Mao Zedong who stated "women support half of the world". The female students do not want to return to their traditional households upon completion of studies at the Qingzhen Female Schools. The schools, by producing religious educators and missionary workers, are making efforts to respond to students' needs and to promote women's participation in society under the Islamic norms.

1.　はじめに

1978年に実行した中国政府の改革開放政策に伴い，1950年代後期から禁止されていた宗教政策が復活した．1982年に中国共産党は「社会主義時期における宗教問題についての基本政策」[1]を発表した．その後，中国共産党は宗教政策や宗教活動に関する法規定を定め，中国の人々は法律が許容する範囲内で宗教活動を行うことができるようになった．中国政府はムスリムのメッカ巡礼を許可したり，政府資金により清真寺（モスク）や拱北（スーフィー[2]派の聖者廟）など宗教的建築

* 名古屋大学大学院国際開発研究科博士課程後期課程

を復興再建したりした．女子教育はこの時期のムスリム社会の注目の焦点になり，各地で女子学校を積極的に設立し，各種形式のムスリム女子教育を行なった．特にムスリムが集中して居住している寧夏，甘粛などでは様々な形の清真女学を多く創立し，ムスリム女子教育を活発に行なった．

このような清真女学は宗教教育機関として，フォーマル教育機関が供給しえない宗教教育をムスリム女子に提供し，また漢語とアラビア語の二言語識字教育をも提供し，更には社会常識も提供している．清真女学は中国イスラーム社会においてイスラーム知識の伝播，民族文化の発揚，ムスリムの教育事業の推進，女性の自己意識の形成，家庭及び社会の安定などにおいて大きな役割を果たしているが，従来これに関する研究は少なかった．その理由はムスリム女子教育が中国イスラーム研究者のほとんどである男性たちの興味を引かなかったことと，清真女学設立の再開の歴史が短いことだと思われる．これまでの清真女学に関する研究を顧みると，清真女学の歴史（水鏡君・瑪利亜・雅紹克 2002），清真女学の教育実態（松本 2001），清真女学とムスリム女性の社会的自立との関連（王建新・新免康 2005）などについては言及しているが，清真女学の教育目標と生徒たちの意識とのずれ，清真女学の生徒たちの生活実態にはまだ触れられていなかった．

そこで筆者は，清真女学ではどのようなイスラーム教育を行なっており，生徒たちをどんな人間になるよう教育しているのか，生徒たちは毎日どのような生活を送っているのか，清真女学の教育目標と生徒たちの意識との間にどのようなずれがあるかについて考察を行なった．上述の諸問題の考察から，清真女学の生徒たちの生活実態や社会進出についての本音を明らかにしたい．特に本稿では清真女学を「外」からの視点でみるのではなく，「内」側から「当事者」の学生の視点に立って観察して得た結果をもとに考察を進める．

2. 調査地の概要及び調査方法

2.1 臨夏回族自治州及び臨夏市の概要

甘粛省の西南部，黄河の上流に位置している臨夏回族自治州[3]は，総面積が 8169 平方キロメートルであり，一つの市と七つの県すなわち臨夏市，臨夏県，永靖県，和政県，広河県，康楽県，東郷族自治県，積石山保安族東郷族撒拉族自治県からなっている．中国のメッカと呼ばれるイスラーム信仰の厚い臨夏市（図 1 参照）は臨夏回族自治州の州都で，臨夏回族自治州の中部，大夏河の下流にあり，総面積は 88.6 平方キロメートルである．

2006 年 2 月 18 日に掲載された臨夏州人民政府網によれば，全州人口は 196 万人で，そのうち回族，東郷族，保安族，撒拉族などを含めたイスラーム教徒が 110.5 万人で 56.4％を占めている．イスラーム教徒の中で，回族人口が 61 万人で 55.2％を占めている．臨夏市の総人口は 19.3 万人で，漢族が 51.5％，イスラーム教徒が 48.5％を占めている．イスラーム教徒の中で，回族人口が 96.9％を占めており，臨夏市の総人口の約半分が回族である．

臨夏回族自治州にはイスラーム教寺院が多く，清真寺及び拱北を含めたイスラーム教寺院が約 2300 座あると言われる．臨夏市だけでも，清真寺及び拱北が 126 座ある（馬蘭 2001：4）．そのうち規模が大きい清真寺は，南関清真大寺，老王寺，老華寺，城角寺，大

図1　中国地図

（出所）http://www.kando-tairiku.com/images/map/china_province.gif（2006年6月3日参照）．臨夏市の位置は筆者作成．

祁寺，前河沿清真寺，木場老寺，木場新寺，西祁寺などであり，有名な拱北は大拱北，台子拱北，国拱北，楡爸爸拱北，太太拱北などである．臨夏市のほとんどの清真寺には，中阿女校（中国語とアラビア語で教育する女子学校），婦女経学班，婦女礼拝殿などの清真女学が設置されており，その中で有名なのは大祁寺女校，前河沿女校である．清真女学の特徴としては，ある清真寺に付属しており，清真寺民主管理委員会が学校の経済運営を管理していることである．しかしこのような清真寺付属の清真女学とは違って，清真寺とは全く関係なく，学校の経済運営を自ら管理する清真女学が臨夏市にある．それがムスリム女子教育のエリート学校と称される臨夏中阿女校（図2参照）である．

2.2　調査方法

臨夏中阿女校の生徒たちの生活実態や社会進出についての本音を明らかにするため，私は2005年11月8日の午前8時から臨夏中阿女校の校長室で馬秀蘭[4]校長へインタビューを行い，2005年11月12日から11月20日までは臨夏中阿女校の寮に宿泊し，学生たちと共同生活を送った．調査方法としては，参与観察とインタビューの方法を用いた．

馬秀蘭校長へのインタビューでは主に学校の概要について聞き，参与観察では生徒の日々の生活，臨夏中阿女校におけるイスラーム教育及び教育目標に注目し，生徒へのインタビューでは臨夏中阿女校に通う動機，卒業後なりたい人間，「男は外，女は内」観念についての見方について聞き，教師（名前はA，B，C……で記す）へのインタビューでは臨夏中阿女校に勤めている動機，「男は外，女は内」観念についての見方について質問した．また回族官僚の中国共産党の民族及び宗教政策についての見方を理解するため，臨夏市民

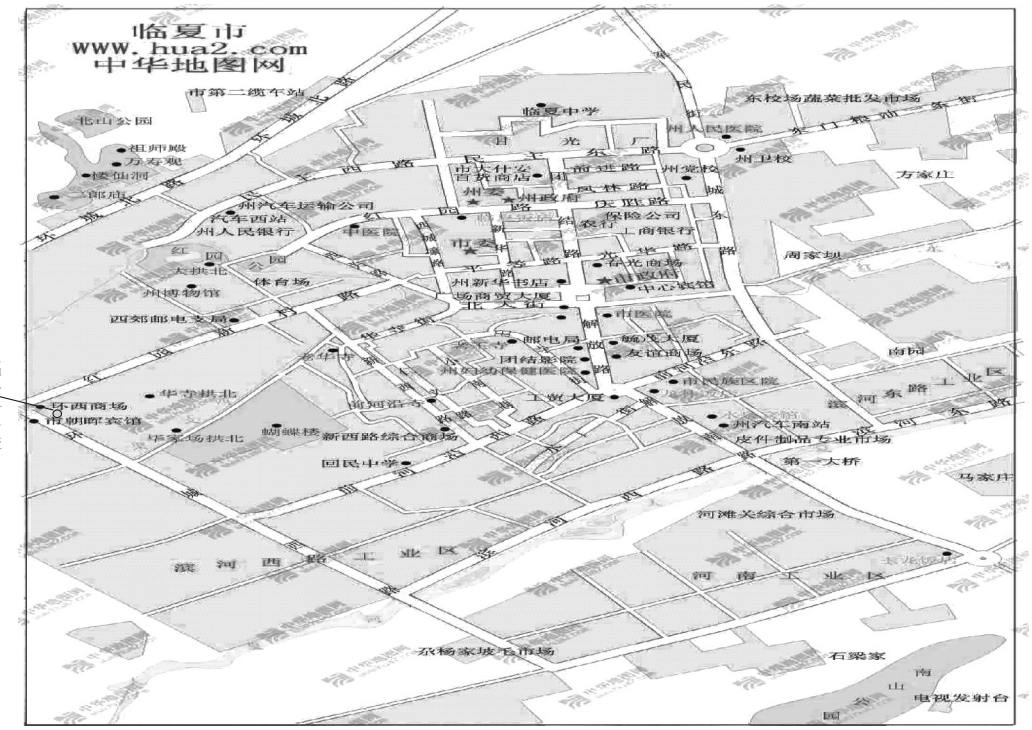

図 2　臨夏市地図

（出所）http://www.donglin.net.cn/chinamap/gansu/chengqu/linxia.jpg（2006 年 6 月 3 日参照）．臨夏中阿女校の位置は筆者作成．

族宗教事務局の馬志清局長を訪問した．以下の臨夏中阿女校の概観は馬秀蘭校長，教師，生徒へのインタビューと 2002 年 12 月編集の臨夏中阿女校の紹介パンフレットに基づく．

2.3　臨夏中阿女校の概観

甘粛省臨夏市祁家庄 35 号にある臨夏中阿女校は，総面積が 4360 平方メートルであり，正門の入り口の守衛室，二つの教育棟と運動場を持っている．教育棟の中には教室，事務室，図書室，編集室，礼拝室，コンピュータ室，沐浴室，総務室，管理員室，宿舎，食堂などが設置されている．

「子供の第一教師としての母親は，知識と正しい信仰があり，物わかりがよい人間であるべきである．母親の道徳水準，行為準則，教養などは，子供の人格形成に直接影響を与えているため，女子に文化道徳教育と信仰教育を行うことは，わが民族の盛衰にかかわる最も大事なことである．」これは臨夏中阿女校の創始者の馬志信（男性）阿訇[5] が 1980 年に学校を創設した目的である．イスラーム女子教育が人々から理解されていない当時，馬志信阿訇は様々な面から来る圧力に耐えながら，ムスリム家庭の家屋一戸を借りて中国最初の私立中阿女校を設立した．1986 年にサウジアラビアと地元のムスリムから献金 12 万元を集めて臨夏市の西の郊外に新校舎を建設し，1989 年に甘粛省教育委員会が公布した「社会力量弁学条例」に則した職業高等学校として臨夏市文化教育局の認可を受けた．また，1996 年に 160 万元の献金を集め，1997

年に敷地面積2600平方メートル，6階建ての校舎を建てた．

現在560人の学生がおり，学生の出身地は甘粛省，青海省，寧夏回族自治区，新疆ウイグル自治区，陝西省，内蒙古自治区，山東省，河北省，河南省，雲南省，四川省，海南省，黒竜江省，吉林省，遼寧省，北京など様々である．560人のうち，100人が地元出身の学生で，残りは全部他地域から来た学生である．地元出身の学生は実家から通学しているが，他地域から来た学生は学校の寮に宿泊している．回族家庭出身の学生が90%を占めており，東郷族，保安族，撒拉族，ウイグル族，漢族などが残りの10%を占めている．学生の年齢は10代と20代であるが，主に15，6歳であり，ほとんどが未婚である．学生の学歴は中学校卒業が主であるが，小学校卒業，高校卒業，大学卒業もいる．

四年制で，第一学年には五つのクラス，各クラスに60名の生徒がおり，第二学年には三つのクラス，各クラスに50名の生徒がおり，第三学年には二つのクラス，各クラスに40名の生徒がおり，第四学年には一つのクラス，40名の生徒がいる．一年に二つの学期があり，前期末と後期末に試験がある．試験の合格者のみが，次の学年に進級することができる．

入学試験があり，応募資格としては中学校卒業以上の学歴を持っている女性である．入学試験の形式は筆記試験であり，試験科目は漢語とムスリム常識である．規則としては試験の合格者だけが入学できるが，不合格者でも学習意欲が非常に強い女子は入学させる．学生の中に小学校卒業者もおり，応募資格はないが，学習意欲が非常に強いため入学させた女の子である．宿泊費は無料だが，一年間の学費は1000元，食費[6]は800元である．さらに教材費と制服費も支払わなければならないので，毎月の平均給料が300元しかない臨夏市では，入学費用の負担が大きいと思われる．これが原因で臨夏中阿女校には地元出身の学生が少ない．

カリキュラムは文化課と専門課に分かれている．文化課は漢語，コンピュータ，思想道徳，クルアーン，民俗，体育などであり，専門課はアラビア語，閲読，文法，会話などである．一年生の設置科目は，アラビア語，常識，閲読，会話，コンピュータ，思想道徳，文法で，二年生の設置科目は，アラビア語，思想道徳，クルアーン，漢語，民俗，閲読，会話，コンピュータで，三年生の設置科目はアラビア語，思想道徳，コンピュータ，クルアーン，閲読，民俗，漢語で，四年生の設置科目は，クルアーン，アラビア語，漢語，会話，歴史，思想道徳，コンピュータである．四学年とも一週間で34コマ（1コマ40分間）設置されており，一年生はアラビア語類が23コマ，イスラーム教育類が5コマ，コンピュータが2コマ設置され，二年生はアラビア語類が16コマ，漢語が3コマ，イスラーム教育類が9コマ，コンピュータが2コマ設置され，三年生はアラビア語類が14コマ，漢語が3コマ，イスラーム教育類が11コマ，コンピュータが2コマ設置され，四年生はアラビア語類が12コマ，漢語が4コマ，イスラーム教育類が12コマ，コンピュータが2コマ設置されている．

学年が低いほど，アラビア語類科目が多く設置されているが，それは高学年になると教材のほとんどはアラビア語版を使うことによる．毎週木曜日の午後は有名な阿訇を招き，2コマの時間を利用して全校の職員と学生に

宗教教育を行い，毎週土曜日の午前は 2 コマの時間を利用して全校学生の演説会を開く．以前は調理課と裁縫課も設置されていたが，今はなくなった．その理由は教師の不足とも関係があるが，それより今の若者は調理と裁縫に興味を失い，実用性も感じられないため，授業を受けたがらないからである[7]．

四年間の勉強を無事に終えたら，学校から臨夏市文化教育局の認定を得た卒業証明書（専攻はアラビア語）を取得できる．臨夏中阿女校は中国のアラビア語関係の精鋭学校であるゆえ，臨夏中阿女校の卒業証明書を取得することは，就職に大変有利である．毎年卒業式が行われると，多くの清真女学の校長も自ら出席し，教師としての新卒生を求めるという．卒業者の大多数は清真女学の教師になるか，海外留学するか，通訳者・翻訳者になるか，女寺の阿訇になる．

学生の各種課外活動は全部学生会が管理・組織する．学生たちが学校に何らかの意見があれば，学生会を通して学校側に報告・反映し，学校側も直ちに解決する．学生会には文化部，紀律部，衛生部，体育部，宣伝部の五つの部がある．校内刊行物の編集，クルアーン学習講座等の開催，壁新聞の作成，校内ラジオの放送（企画中）は文化部が責任を持って担当する．紀律部は会場内（講演会会場など）と食堂内での紀律を維持し，礼拝しない学生がいるか，学校の規則に合う服装[8]であるかを検査する．衛生部は宿舎と教室の衛生を検査し，学期ごとに優秀宿舎と優秀クラスを選ぶ．体育部はラジオ体操を放送し，綱引き，縄飛び，卓球とリレー試合を企画し，宣伝部は主にイスラーム信仰を宣伝する．

外部からの誘惑を防ぎ，学生たちに勉強に集中させるため，学校は閉鎖的管理制度を実施している．そのため，教師の許可なしに学校の外へ出ることは不可能であり，許可を取って外へ出ても午後六時までには必ず帰らなければならない．病院に行くとか郵便局に行くとか正当な理由がある時だけ，教師の許可を得られる．学校内に小売店があり，町に出なくても日常生活品は全部小売店で買えるようになっている．また，運動場には卓球台も設置されており，体を動かしたい時には，皆卓球をする．

学校の職員は全部で 50 名で，校長が 1 名，副校長が 1 名，秘書が 1 名，教師が 35 名，労働者が 12 名である．教師のほとんどは臨夏市出身で，半分以上の教師がアラビア語を教えている．教師のうち，1–5 年の教学経験を持っている人は 5 人，6–9 年の教学経験を持っている人は 8 人，10–15 年の教学経験を持っている人は 17 人，15 年以上の教学経験を持っている人は 5 人である．また，学士学位を取得している教師が 10 名，サウジアラビア，マレーシア，パキスタン，タイなどの国への留学経験を持っている教師が 10 名，何人かの教師は現在海外留学中である．教師の毎月の給料は 300–700 元であり，学歴，勤務年数，留学経験の有無によって給料も違う．以前は学生の学費は無料で，教師も無償で教えていたが，学校の教育施設と環境の改善のため，近年になってから学費の徴収と給与の支給を実施することになった．一人の教師は平均一日 2 コマを教えている．

学校の内部管理層は理事会であり，理事会のメンバーは「愛国愛教」の精神が強く，民族教育を熱愛する地元の回族の有名人からなる．現在 4 名のメンバーがおり，理事長（馬志信）が 1 名，副理事長が 2 名，秘書長が 1 名である．学校の経費源泉は主として各地の

民族教育事業を熱愛するムスリムたちの献金であり，一部が学生の学費である．支出は先生の給料や学校の教育施設と環境の改善費が主である．理事会のメンバーが皆男性であるため，理事会は臨夏中阿学校[9]に設置されている．臨夏中阿女校の会計係は毎月臨夏中阿学校に行き，月々の収支状況を理事会に報告する．臨夏中阿女校と臨夏中阿学校両方とも業務上は臨夏市文化教育局の指導と管理を受ける．臨夏市文化教育局は中国共産党の政策を伝達し，学校の統計数字を要求したり，学校の卒業式に参加したりするが，学校の管理運営には直接参与しない．

ムスリム女性の文化素質を高め，視野を広げ，生活を向上させ，外部の世界を理解させるため，馬秀蘭校長は1994年に中国最初のムスリム婦女及び児童の生活をあつかった新聞『穆斯林（ムスリム）婦女』を創刊した．この新聞は，1995年に北京で行われた「第四回世界女性会議」で高い評価を得た．しかし，1999年に第46号を出版した時，内部の刊行番号が許可できなかったため停刊された．内部の刊行番号が許可されなかった理由については，中国政府がイスラームの発展を制限しようとした[10]という説もあるが，記事の内容が「宗教事務条例」の第二章第七条[11]（二）の規定に違反した[12]という説もある．現在『校園内外』という校内刊行物があり，主に学生たちが投稿している．すでに二号まで発行され，これからも発行し続ける予定である．

3．カリキュラムと教科書から見たイスラーム教育

カリキュラムの中でイスラーム教育に関する科目は，一学年には思想道徳，常識があり，二学年には，思想道徳，クルアーン，民俗があり，三学年には思想道徳，クルアーン，民俗があり，四学年には，クルアーン，歴史，思想道徳がある．一週34コマの中で一学年は5コマ，二学年は9コマ，三学年は11コマ，四学年は12コマ，学年が高いほどイスラーム教育類科目が多く設置されている．

一学年の「思想道徳」の授業に使われている教科書は『イスラーム教六大信仰総綱』であり，「常識」の授業に使われている教科書は『礼拝必読』である．二学年の「思想道徳」の授業に使われている教科書は『ムスリム婦女』であり，「クルアーン」の授業に使われている教科書は『クルアーン』であり，「民俗」課に使われている教科書は『ハディース』である．上述の教科書はすべて中国語版である．三学年と四学年のイスラーム教育に使われている教科書は全部アラビア語版である．ここでは，一学年で使われている『礼拝必読』と『イスラーム教六大信仰総綱』，特に二学年で使われている『ムスリム婦女』について論述してみよう．

『イスラーム教六大信仰総綱』は全部で56ページあり，イスラーム信仰の基本である「六信五行[13]」の「六信」について書かれている．『礼拝必読』は全部で100ページで，礼拝の分類及び規則について詳しく書いてあり，「五行」の中の「念・斎・課・朝」及び大・小浄[14]知識についても簡単に書かれている．『イスラーム教六大信仰総綱』と『礼拝必読』の教授から，一年生にムスリムとして掌握すべき常識を教えようとする学校側の意図が見られる．

11月12日の第五時限に，1学年2組の「思想道徳」の授業でB教師が礼拝の重要性について語った時，「命という字から分かるよう

に，人は一生礼拝[15]のため生きる者です.」と述べていた．B 教師の言うように,「命」という漢字に含まれる「人」,「一」,「叩」からそういうふうに理解することも不可能ではない．清真女学の教師たちが自分たちの行為を学生に説得的に説明するため，色々な工夫をしていることが分かる．

『ムスリム婦女』は全部で 165 ページあり，主にイスラーム社会の男女平等観念，女性の義務及び理想の女性像について書かれている．イスラーム社会の男女平等観念についての記述[16]は次の通りである．「イスラームは男女が根本的には平等であると主張している．男女平等の面は以下のようである．一，人間性が平等である．（中略）二，本性が平等である．（中略）三，尊厳が平等である．（中略）四，イスラーム教を信仰し，イスラーム法を執行する面で平等である．（中略）五，教育を受ける面において平等である．（中略）六，知識を学習する面において平等である．（中略）七，倫理・道徳の面において平等である．（中略）八，法律上で平等である．（中略）九，イスラームの男女平等の観念を守る．（中略）十，遺産の相続の面において平等である．（中略）十一，言葉使いと振る舞い，条約の実践の面において平等である．（中略）」である．このように，イスラームは人権，人格，尊厳，教育権，相続権などの面で男女平等の観点を訴えている．

ムスリム女性の義務についての記述は「女の基本的な職責は家事をこなし，夫を手伝い，子供の教育を行うことである．仕事に疲れている夫のために，温かくて幸せな家庭を作るべきである.」[17]と「妻が夫に果たすべき義務には次のようなものがある．一，夫の尊厳を守る．（中略）二，夫の宗教信仰の名誉を守る．（中略）三，夫の個人生活や社会生活を守る．（中略）四，家事をこなす．（中略）五，夫の財産を適切に処置する．（中略）六，夫の気持ちを愉快にさせる．（中略）七，舅と姑に孝行し，仲のよい家庭を作る．（中略）八，子供をよく教育し，優しく，根気強い母親になる.」[18]である．すなわち，ムスリム女性は良妻賢母になることを義務付けられている．この点に関してはC教師が授業中に生徒たちに語った話からも確認できる．「臨夏中阿女校で学習する目的は，自分の思想と行為を改造するためです．女性なら，親孝行し，夫を尊敬し，子供をよく教育すべきです．臨夏中阿女校での勉強が終わったら，皆さんは良妻賢母になれます.」

イスラームの理想の女性像は「一，イスラームは女性に確かにアッラーに帰依した夫のパートナーになるよう要求する．夫の布教活動を支持し，彼の仕事を助ける．戦争では彼の勇気を励まし，夫のこのような行為が彼女にもたらした不幸及び貧しい生活に耐えなければならない．（中略）二，イスラームは女性に家庭主婦になり，夫の慰安者になり，子供の教育者になるよう要求する．（中略）三，イスラームは女性に知識がある女性になるよう要求する．（中略）四，イスラームは女性にイスラーム教の教養を深めるよう要求する．（中略）五，イスラームは女性に誠実な人間になるよう要求する．（中略）六，イスラームは女性に粘り強い人間になるよう要求する．（中略）七，イスラームは女性にアッラーを喜ばせることをするよう要求する．（中略）八，イスラームは女性に高尚で貞潔な人間になるよう要求する．（中略）九，イスラームは女性に長期的にアッラーを祈念し，アッラーに従い，クルアーンを読み上げ・理

解し，ハディースとイスラーム法学及びイスラームの歴史を学習するよう要求する．（中略）十，イスラームは女性に責任感と信頼感がある人間になるよう要求する．（中略）」[19]である．以上，イスラーム社会で好まれる女性は知識・教養・信仰があり，良き家庭主婦になれるムスリムであることがわかる．

では，女性が社会に出て仕事することについての記述はどうなっているか．これに関しての記述は次の通りである．「子供と夫の面倒を見，家庭をよく管理することは女の本性に合う仕事であり，生活の中で男性と協力し合う仕事である．そのため，女性に社会に出て仕事をさせる必要はない．女性が社会に出て仕事しなければならない事情がある時は許されるが，次のような条件を守るべきである．一，父親や夫の許可を取るべきである．二，仕事をするという理由で外の男性と混雑して喋るとか，密会することは禁止する．」[20]と「女性に彼女たちの本性に合う仕事をさせるべきである．（中略）一部の女性たちに大学などに進学させ，婦女及び子供の保健医者，看護師，女子教育のための実力ある教師を育成すべきである．」[21]から見られるように，女性の社会進出はイスラーム社会ではあまり喜ばれないことであり，やむを得ない場合だけ仕事をすることが許され，それも色々条件が付いており，勤務可能な職種も限定されている．

一見すると，臨夏中阿女校では学生たちに男女平等の教育を行なっているように思われる．しかし，それはあくまでもクルアーンの中の男女平等の観点であり，現代欧米社会における女性の解放や社会への進出を指す男女平等の観点ではない．クルアーンには男女は神の前で全く平等であり，アッラーから頂く恩恵も同じものであると規定している．また，男性の二分の一ではあるものの，女性に遺産相続権が認められている．更に結婚契約書に離婚の際の慰謝料となる婚資の金額を書き記すことで離婚後の女性の生活を保証する考えも記されている．しかし，「男は外，女は内」という男女の役割分担も明確にしている．といって決して女性を差別して女性の役割を家庭内に限定したわけではない．クルアーンによれば，男女は生理・心理構造が異なっており，男性に合う仕事が女性にも必ず合うとはいえない．女性の生理・心理構造の特徴からみて，女性は家庭内での仕事つまり家事と育児が合っているとクルアーンでは認識している．

イスラーム社会の男女平等の観念について，D 教師は次のように語っていた．「女性の社会労働への従事率が低いことから，欧米社会ではよくイスラーム社会は女性差別，女性抑圧の社会だと言っていますが，それは欧米社会で言う男女平等の概念と我々が言う男女平等の概念が異なるからです．イスラーム社会では人権，人格，尊厳などで男女は平等であると認識していますが，男女の間の差異も認めています．男性は肉体労働に従事できますが，女性には無理ですね．できるといっても，女性には相当疲れる仕事です．イスラームは女性を保護するため，女性には育児と夫の世話を，男性には家族の扶養を義務付けています．男女双方の義務はその重要性において違いは少しもないです．女性は家庭の灯り，家族のリーダー，子供のゆりかご，幸福の源泉，美徳の職人であると預言者が述べたように，女性なら自分自身の特有の使命を実現すべきです．」

クルアーンの中の男女平等の観点は，現在

の認識からみれば不充分なものはあるものの，イスラーム教が創唱された七世紀初頭の感覚としてはまさに想像を絶するほど画期的なものであったといえるだろう．馬志信阿訇が臨夏中阿女校を創始した目的と臨夏中阿女校におけるイスラーム教育から見られるように，臨夏中阿女校の教育目標は良き家庭主婦を育成することである．

4. 生徒の日々の生活

月曜日から土曜日の午前中までは授業が開講されているため，生徒たちの生活は表1の通りで，一日中授業と礼拝を中心とした生活が送られる．授業では，アラビア語の勉強に皆熱心である（アラビア語ができると就職に有利であるため）が，ムスリム常識の勉強には熱心な人もいれば，あまり熱心でない人もいる．あまり熱心でない生徒のほとんどは低学年に見られ，イスラーム信仰が浅く，親の強要か恋人のため臨夏中阿女校に通う人々である．臨夏中阿女校に通う動機について一年生の7人にインタビューしたが，1人は父親の強要で，2人は恋人のためだと答えた．そのうち，1人は大学時代から付き合った回族家庭出身の恋人のためイスラームに帰依した漢民族の女の子であり，1人はイスラーム文化に愛着心がない回族家庭出身の女の子であるが，敬虔なムスリムの婚約者のため臨夏中阿女校に通っている．

漢語科目は設置されているが，よく休講になる．その原因は，漢語教師の多くは西北師範大学などの大学から招いた非常勤講師で，臨夏市から遠い蘭州市に住んでいるからである．コンピュータ応用知識の習得はコンピュータ室で行われるが，文字の入力やファイルの作成などの基礎的なものを教える．コンピュータがインターネットに繋がっていないため，インターネットの利用方法が分からない学生が多い．インターネットに接続していない理由は，学生たちをインターネットの不良情報から守るためであると言われている．

11月14日の午後三時に行われた1学年2組のクラス会議で，担当先生がインターネットの不良情報の人間への悪影響として次のような例を挙げていた．

「皆さんもご存知のように，うちのクラスの○○さんは学校から退学処分を受けました．その理由は，彼女は先生の許可なしで彼氏と一緒にローラースケート場に行き，しかもヴェールも被らず，ジーンズ姿です．彼女が彼氏と知り合ったきっかけはインターネット上です．インターネットの発達によって情報の収集が便利になりましたが，インターネットの情報には不良情報も多く，人間の精神に悪影響を与えることもあります．ですからインターネットの利用はできるだけ避けることも大事です．（中略）うちの学校の管理が厳しいと思う学生がいるらしいが，もし厳しいと思うなら自己退学してください．ヴェールを被らせるのは，女性の尊厳を保護するためです．心の中にイスラームを完全に受け入れた時こそ，ヴェールを被ることは女性を保護することで，女性の美を遮ることではないということが分かり，その時には自分自身も自然的にヴェールを被るようになります．」

土曜日の午前の演説会に，学生全員は積極的に参加している．将来の清真女学の教師かイスラーム指導者になるためには，皆の前でスピーチする能力を身につけなければならないからである．

土曜日の午後から日曜日までは学校も休み

表1　臨夏中阿女校における生徒の平日の生活

6：20～	起床　小浄　晨礼(夜明け前の礼拝)
7：00～	朝食
7：30～	朝自習
8：00～	授業
8：40～	休憩
8：50～	授業
9：30～	休憩　ラジオ体操
9：50～	授業
10：30～	休憩
10：40～	授業
11：20～	昼休み　昼食
12：30～	昼寝
13：30～	晌礼（正午過ぎの礼拝）
14：30～	自習
15：00～	授業
15：40～	休憩
15：50～	授業
16：30～	晌礼（午後の礼拝）
17：30～	夕食
18：40～	昏礼（日没の礼拝）
19：30～	晩自習
21：00～	宵礼（夜半の礼拝）　小浄
22：30～	寝る

（出所）筆者作成

であり，礼拝以外の時間帯は学生が自由に使える．自由に使えると言っても，学校外に出ることは禁止されているため，寮生なら普通は洗濯，読書，卓球などの活動で週末を過ごす．音楽を聞きたい学生もいるが，クルアーン誦読以外の音楽特に流行歌は禁止されている．それは，流行文化がイスラーム伝統文化を侵食するのを防ぐためだろう．

学校の閉鎖的管理制度に不満を感じている学生は多い．「学校はオープンな管理制度を取るべきです．学校外に出られないようにすればするほど，我々は外の世界に憧れと神秘感を感じ，外に出たくなります．学校外を自由に出入りさせたら，外に出たいと思わないはずです．しかも，我々を外の世界と隔離させると，我々は外の世界を知らなくなり，社会に出たら騙されやすいです．」と語る学生が多い．

『クルアーン』33章33節の「あなたがたの家に静かにして，以前の無知時代のように目立つ飾りをしてはならない」（三田了一訳 1983：514）と『ハディース』「浄めの書」の「アーイシャによると預言者は，女達よ，必要のために外へ出ることは汝らに許されていると言った．ヒシャームによると，ここで必要とは用を出すことであるという」（牧野信也訳　1993：67）から分かるように，イスラーム社会では女性を外に出さないように，男性と接触しないようにしている．イスラームの伝統を守ろうとする学校側の姿勢に反して，学生たちは社会の事情を全然知らない単純な人間になることを恐れている．厳しくて単調な学校での日々の生活は，思春期にある若い娘たちには耐えられない部分があると思われる．

5．社会進出についての生徒の意識調査と要因分析

社会進出についての生徒の意識調査の質問項目として，私は「男は外，女は内」観念についての見方と卒業後なりたい人間を選んだ．臨夏中阿女校に滞在した八日間，20人の学生にこの二つの問題についてインタビューできた．その20人の学生は，一年生が7名，二年生が2名，三年生が4名，四年生が7名である．

まず，「男は外，女は内」観念についての見方のインタビューの結果（表2参照）である．

一年生の7人のうち，1人だけが賛成し，

表 2　社会進出についての生徒の意識調査

	一年生 （7 人）	二年生 （2 人）	三年生 （4 人）	四年生 （7 人）
「男は外，女は内」観念について	反対：6 人 賛成：1 人	反対：1 人 賛成：1 人	反対：3 人 賛成：1 人	反対：6 人 賛成：1 人
卒業後なりたい人間	商売人（1 人） 中阿通訳者（1 人） 布教師（1 人） アラビ語教師（1 人） 広告設計師（1 人） 家庭主婦（1 人） はっきり決まってないが，仕事をしたい気持ちはある（1 人）	アラビア語教師（1 人） 商売人（1 人）	女学の教師（1 人） 女企業家（1 人） 阿語学校の教師（1 人） 教師（1 人）	布教師（1 人） アラビ語教師（2 人） アラビア語教師か中阿通訳者（1 人） 中阿翻訳者（1 人） 商売人か通訳者か中阿学校の創設者（1 人） はっきり決まってないが，仕事をしたい気持ちはある（1 人）

（出所）筆者作成

残りの 6 人は皆反対している．賛成の理由は「外に出て仕事をすると男性と接触し，話す機会が多くなる．それは名誉によくないだけではなく，男性の欲望を引き起こすかも知れず，自分の安全にもよくない．私が臨夏中阿女校に通う目的は，良妻賢母の方法を学び，良き家庭主婦になるためである」．反対の理由は「経済的に独立しないと家庭での地位が低く，家で話す権利がない」(2 人)，「女性にも自分の仕事があるべきで，自分の能力を発揮し，社会に貢献すべきである」(2 人)，「自分の稼いだお金は自分で管理できるため，気楽である」(1 人)，「夫が稼いだお金を使う時はきちんと報告しなければならないが，それは面倒臭い」(1 人)．

二年生では 1 人は反対で，1 人は賛成である．反対の理由は，「女性に経済的能力がないと，男性の付属品になる」．賛成の理由は，「女性が外に出て仕事すると，不良なものと接触する可能性が高いため，信仰に悪影響がある．将来主人に家族を養う能力があれば，自分は仕事しない」．

三年生では 3 人は反対で，1 人は賛成である．反対の理由は，「経済的に独立しないと，家庭での地位が低い」(1 人)，「夢が企業家になることである．家庭に閉じ込めていると，夢が実践できない」(1 人)，「男女は平等である．夫も家事をすべきで，妻も仕事をすべきである」(1 人)．賛成の理由は，「男女は身体構造が異なる．身体構造から見て，男は外で働くことに合うが，女は家事をすることに向いている」．

四年生では 6 人は反対し，1 人だけが賛成している．反対の理由は，「経済的に独立しないと，家庭での地位が低い」(2 人)，「仕事を持つと充実した生活を送れる」(1 人)，「女も男性と同じような社会的責任を持つべきである」(1 人)，「女性の能力を発揮し，社会に貢献すべきである」(1 人)，「仕事があると自立できる．自立は女を自由にさせ，社会的地位を高め，社会を理解させる」(1 人)．賛成の理由は，「女は良い知識を持つべきである

が，良い仕事は持たなくてもいい．女が良い知識を持つべき目的は，職場で使うためではなく，家庭で使うためである．教養と素質が高い女こそ，良い家庭主婦になれるからである」.

以上の回答から，学年に関係なくほとんどの生徒は「男は外，女は内」観念つまり男は外で働き，女は内で働くという伝統的な観念に反対していることがわかる.

次に，卒業後なりたい人間のインタビューの結果（表2参照）である.

一年生の7人のうち，6人の「卒業後なりたい人間」は，商売人，中阿通訳者，布教師，女学のアラビア語教師，広告設計師[22]，家庭主婦である．1人は「卒業後なりたい人間についてじっくり考えたことがないが，一応イスラーム国家に留学したい．その後帰国して仕事したい」と答えた.

二年生の1人は，「卒業後エジプトに留学したい．その後帰国して大学でアラビア語を教えたい」と答えて，1人は「卒業後マレーシアに留学したい．マレーシアの大学で金融学を専攻し，将来は帰国して商売をやりたい」と答えた.

三年生の4人の答えは，「卒業後イスラーム国に留学したい．それができなければ女学の教師になりたい」，「女企業家になりたい」，「先ずイスラーム国に留学したい．帰国後，阿語学校の教師になりたい」，「パキスタンに留学したい．帰国後，教育機関に勤めたい」である.

四年生の7人の回答は，「卒業後マレーシアに留学したい．帰国後，布教師になりたい」，「卒業後マレーシアに留学したい．帰国後大学のアラビア語教師になりたい」，「アラビア語教師になりたい」，「アラビア語教師か中阿通訳者になりたい」，「卒業後イスラーム国家に留学し，自分のアラビア語と宗教レベルを高めたい．帰国後アラビア半島の良い文学作品を翻訳したい」，「卒業後一応イスラーム国に留学したい．留学先で金融学を学び，帰国後は商売人になるか，通訳者になりたい．兄弟三人で故郷の新疆ウイグル自治区石河子市で中阿学校を開きたいと思う時もある．とにかく女学の教師にはなりたくない．それは女学の給料が，あまりにも低いからである」，「卒業後とりあえず留学したい．その後のことははっきり決まってないが，仕事したい気持ちはある」である.

「卒業後なりたい人間」については，「男は外，女は内」観念に賛成している一年生の女の子だけが家庭主婦に，残りの19人は皆キャリアウーマンになりたがっていることが見られる．以上の二つの質問の回答から，女は内の理念に賛同する者は少数派ながら各学年に1名いるのに対して，自分自身のこととなるとほとんどが社会進出の願望を持っていると言える．これは臨夏中阿女校の教育目標つまり女性を良き家庭主婦になるよう育成することに反している．ではなぜ学校の教育目標と生徒の意識はマッチしていないか．それは，新中国成立後の中国の社会・文化背景と密接に関連していると思われる.

1949年に社会主義政権を樹立した中国政府は，臨時憲法に相当する「共同綱領」の中で，「中華人民共和国は女性を束縛していた封建制度を排除し，政治的，経済的，文化教育的，社会的生活の各方面において，女性は男性と平等の権利を有する」と宣言した．ここで，男女平等という法的な地位が明確に確定された．新しい国家建設のため，「男女平等の理念」に基づいて，政府は過去において

社会労働に従事してこなかった就業可能な女性を労働力として組織した．また，1951 年に『中華人民共和国労働保護条例』，1953 年に『中華人民共和国全国人民代表大会及地方各級代表大会選挙法』，1954 年に『中華人民共和国憲法』(1975・1978・1982・1988・1993・1999・2004 年に修正)，1992 年に『中華人民共和国婦女権益保障法』が発布され，女性の社会における政治的権利，労働権益，基本的人権などについて詳細に定められた．政府のこのような強力な指導によって，ほとんどの女性が社会労働に従事するようになり，現在中国は就業の面で女性の果たす役割が非常に大きい国として知られている．2000 年 12 月 1 日に全国婦女連合会と国家統計局が行なった「第二期中国婦女社会地位抽様調査」[23] によると，2000 年の女性の就業率は 87％に達し，男性の就業率との差はわずか 6.6％しかない．もはや中国社会では社会労働への女性の従事は当たり前のようになり，政治の世界や大企業のトップの中にも女性が指導的地位につくケースが珍しくない．

中国政府のこのような積極的な女性政策に伴い，マス・メディアでもいわゆる「女強人」(職場で一定の成果を獲得した強い女) をよく報道する．政界の「女強人」の呉儀，陳至立，彭珮雲，企業界の「女強人」の呉士宏，謝企華，馬雪征などの姿はテレビでよく見られ，彼女たちに関する記事も新聞などでよく読まれる．このような「女強人」たちは大学などで講演会を開き，自分の人生経験を語ることもある．小説や映画やドラマなどでもヒロインは「女強人」で，様々な苦境を克服して，最後には出世する物語が多い．

中国政府の男女平等の政策は学校教育にも反映され，教師たちは学生たちに各分野での男女同権の教育を行なっている．宋慶齢，鄧穎超，張海迪などは中国の小・中学校の思想教育でよく挙げられる「女強人」であり，女子小・中学生の学習対象となっている．教師たちは男子生徒，女子生徒に関係なく，社会で活躍できる人材を育てるよう努力している．中国人女性は強いとしばしば言われるが，それは中国政府の政策，マス・メディア，学校の教育と関係があるだろう．臨夏中阿女校の生徒たちも，中国女性の一部を構成するという点では，主流社会の文化の影響を受けて，社会労働に従事したいという希望をもつことは当然であろう．

ここで指摘しなければならないことがある．臨夏中阿女校の生徒の社会進出についての意識調査の結果は，2004 年 5 月に私が甘粛省蘭州市の清真女学の生徒たちに行なった意識調査の結果と正反対である．甘粛省蘭州市の清真女学に通う回族女性たちは，イスラーム女性としての行動を家庭内に限定させる伝統的性別役割の機能を依然として肯定し，家庭内での主婦と母親としての役割を自覚的に果たそうと努力している（金仙玉　2006：66）．

臨夏中阿女校の生徒と蘭州市の清真女学の生徒の社会進出についての意識調査でなぜ異なる結果が出たのだろうか．それは臨夏中阿女校の生徒の年齢及び結婚状況と清真女学に通う動機が蘭州市の清真女学の生徒と異なっているからだと思われる．臨夏中阿女校の生徒のほとんどは未婚の若い女性であり，しかも中学校卒業以上の学歴を持っているため，社会進出の可能性が大きい．彼女たちは，イスラームの伝統的性別役割分担についてあまり賛成していないが，親の強要で仕方なく臨夏中阿女校に通っている．しかし，蘭州市の清真女学の生徒の多くは既婚の中年女性であ

り，しかも非識字者が多いため，清真女学で宗教教育を受けたといっても就職は難しい．たとえ就職が決まった（内定者の大多数は清真女学の教師として全国各地に派遣される）としても家族をもつ彼女たちには勤務不可能だろう．以上，蘭州市の清真女学の生徒の多くは，社会進出の可能性が小さいため，伝統的性別役割を肯定せざるをえなく，自発的に清真女学に通う道を選んだ．このように，蘭州市の清真女学の生徒のほとんどが卒業後家庭に戻る現象は，彼女たちが社会経済的に活躍できる機会が限られていることとも関連があるが，自分自身主婦としてイスラーム女性の伝統的なあり方に回帰する意義を再発見したと見ることもできる．

社会進出への憧れは臨夏中阿女校の生徒にのみではなく，生徒たちに良妻賢母になるよう教育している教師の中でも多く見られる．臨夏中阿女校の3人の教師との交流から，次のような話が出た．「喜んで家庭主婦の道を選んだ女性がいるかも知れないが，自分に社会進出に必要な知識と能力がないため，仕方なく家庭主婦の道を選んだ女性が多い．中国には喜んで家庭主婦になりたいと思う女性は少ないだろう．」「国の平均給料と比べると臨夏中阿女校の教師の給料は少ないが，臨夏市では中等水準になる．ムスリム女性として給料をもらえる仕事を持ち，自分の能力を発揮できる場所があることは，臨夏市では自慢のことである．」「家に閉じこもっていると社会事情が分からなくなり，最終的には社会から淘汰されるため，仕事をすることはいいことだろう．」このように臨夏中阿女校の教師たちは生徒に良き家庭主婦になるよう教育しているが，自分自身の社会進出については満足感を感じている．彼女たちは教師の立場から生徒に『クルアーン』，『ハディース』をありのまま教えているが，実は彼女たちもイスラーム伝統のある部分には賛成していないのではないか．臨夏中阿女校の教師と生徒のこのような社会に進出しようとする現象はイスラームの教義への違反のように見えるが，実際はそうでもない．女性の社会進出は確かに好まれないが，社会に有利なことをするためなら女性でも外に出て仕事はできるとイスラームは規定している．臨夏中阿女校の教師と生徒は，社会に有利な仕事をするという理由で自分の社会進出を認めてもらい，価値と能力を社会に示し，自立の道を切り開こうとしているように思われる．

6. 終わりに

1980年代以降，中国政府の宗教政策によって中国イスラーム社会ではイスラーム復興運動が起こった．このイスラーム復興運動は多くのムスリムを吸い込み，彼らが自文化を再認識するようになった．ムスリム女性たちも当然自文化を見直し，自文化への帰依を望み，自らイスラームの伝統を教える清真女学に通うことを選んだ．しかし，1980年代以後に生まれたイスラームの女の子たちが，どれだけイスラーム復興運動の影響を受けているかは疑問である．少なくとも彼女たちはイスラームの伝統を全部受け入れるのではなく，主流社会の文化とイスラームの伝統文化を融合し，自分が納得できる方向へ向かうことを望んでいる．それが清真女学の教育目標と生徒たちの意識のずれに現れていると言えよう．

女であること（本質主義）と，女になること（構築主義）とが違うように，イスラーム

の家庭に生まれたことだけで自然的にイスラーム女性になるのではない．イスラームの文化を吸収し，イスラームの教育を受け，イスラーム信仰を身につけて，はじめてイスラーム女性になるのである．だからイスラームの家庭で生まれたにも関わらず，イスラームを信仰しない女性もいれば，漢民族の家庭で生まれたにも関わらずイスラームを信仰する女性もいるのである．

清真女学は，イスラーム女性として生まれた生徒たちをイスラーム女性にならせることを目標としている．しかし，生徒たちはイスラームの男女隔離規則，女性の社会進出への制限などに不満を感じている．学校側が望む「イスラーム女性になる」ことには，まだ抵抗があるようだ．

こうした状況をふまえ，学校側も今ではイスラームの規範内での女性の社会進出を促進するよう努力している．近年の教育理念の「知識，道徳と素質を持つ専門人材を育成して，女性の素質を向上させ，民族教育を発展させ，民族の団結を促進させ，民族振興と国家建設に貢献すること[24]」からわかるように，臨夏中阿女校では良き家庭主婦の育成から民族振興と国家建設に貢献できる専門人材の育成も教育方針に入れている．

ここで言う専門人材は，宗教教育者，布教者を指すことは言うまでもない．校長へのインタビューによると，卒業生のほとんどが清真女学の教師になり，一部が女寺の阿訇になるか海外留学し，専業主婦になる女性はほとんどいないという．したがって臨夏中阿女校の学校側が示す女性の社会進出は，イスラーム女性社会内部での布教活動を中心とした社会進出であり，男性社会も含め，すべての社会労働に従事する共同参画，というレベルでの社会進出ではない．その意味で限定的ではあるが，臨夏中阿女校は特定分野で活躍できる専門人材を育成し，ムスリム女性に自立の道を獲得させる役割は果たしているだろう．

また，校内刊行物の『穆斯林婦女』と『校園内外』の編集からわかるように，臨夏中阿女校の役割は単純にムスリム女性たちにイスラーム知識を教え，専門人材を育成することに限らない．臨夏中阿女校はムスリム女性の文化創出の場所でもある．臨夏中阿女校の生徒たちは昔のようにただ受身になって教わることだけではなく，文章の執筆を通して自分の思想，観点などを積極的に世間に発信し，社会に自分たちの声を伝えようとしている．

たとえば『穆斯林婦女』第十六号（1997 年 1 月 3 日）第一版の『尊厳と自由―イスラーム的思考』（作者は冶治）に次のような意見が載っている．「多くのムスリムは女性の役割は家事労働をすることで，従事できる仕事の範囲も限られていると思う．そのため，婦女は生まれつき人に仕える者であるという観念が我々ムスリム社会に存在している．しかし，これは間違った観念である．なぜならば，アッラーの前で男女は平等であり，女性は奴隷の身分ではなく，主人の姿勢で家庭を作るべきであるからである．家事労働は家庭建設の必須の一部であるが，すべてではない．多くの家事労働は男性が手伝ってくれなければならない．（中略）ムスリム女性は自分のすべての注意力を家事労働に置いてはいけない．できるだけある程度の知識を備え，自分の視野を広げ，自分の独立の心理と思想を維持しなければならない．できるだけ自分自身，家庭及び社会とイスラームとの関係を理解して，家庭建設の中で自分の能動性と知恵を発揮しなければならない．」このようなムスリム女

性の主張は，服従し抑圧されるムスリム女性のイメージとはほど遠い．

臨夏中阿女校は，改革の道を歩みつつある．校長秘書の馬景霞へのインタビューによれば，現在カリキュラムにはアラビア語と宗教類の科目が主だが，今後は英語，政治，数学，歴史など社会生活を送るために有用な科目も多く取り入れる計画である．そして，イスラーム学とアラビア語学だけでなく，様々な科目を教えられる質の高い教師の育成にも力を入れている．教師の資質向上を基に，今後，中国という国家の枠組みのなかで「イスラームの女性になる」教育を進めていくのであろう．

注

1）宗教基本政策の要旨は次のとおりである．a. 宗教が生まれ，存在するには社会的，歴史的根源があり，その長期存在は避けられない．b. 建国以来の党の宗教政策の歴史的経験に鑑み，「左」の誤った傾向に反対するとともに，自由放任も防止すべきである．c.「宗教信仰の自由」を尊重し，保護することが党の基本政策である．d. 宗教界の名士と団結し，若い愛国的宗教職業人を養成する．e. 愛国的宗教組織の働きを十分に発揮させ，多くの信徒が正常な宗教活動を進められるように組織し，指導する．f. 党の指導力を強めることが，宗教政策をよくする根本的保証である．

2）イスラームの教えを内面化，倫理化することにより，神との直接体験を目指した人々のこと．スーフィーの中で，神に到達した者は聖者と呼ばれる．しかし，一般的な用法では，聖者は予言者ムハンマドの子孫，教友などスーフィーでない人々をも含む．教団が普及してからは，スーフィーとはなんらかの教団に属している者を言うのであり，現代においてもそうである．

3）臨夏州人民政府網（2006年6月1日参照）http://www.lx.gansu.gov.cn/Article_Index.asp

4）臨夏市の回族家庭に生まれた馬秀蘭は，1980年に臨夏中阿女校に入学し，当校の最初の生徒の一人である．臨夏中阿女校を卒業した後，北京第二外国語学院，マレーシア国際イスラーム大学で研鑽を積んだ．『穆斯林婦女』，『古蘭経－光輝的引導』，『伊斯蘭鋳造的一代女杰』などの本を翻訳し，中国ムスリム婦女の生活を反映する中国最初の新聞『穆斯林婦女』も創刊した．

5）広義にはイスラーム法学・神学に通じる人を示すペルシア語．中国のイスラーム教徒の間では，阿訇は宗務者の位階の一種で，清真寺の教長になる資格を有するものをいう．

6）宿泊生に限る．一日三食で，朝食は饅頭とお粥か豆乳，昼食はご飯と料理一品，夕食はラーメンである．三食とも食べ放題．

7）校長秘書の馬景霞へのインタビューによる．

8）ヴェールに手首・踝まで隠れる，ゆったりとした服装．

9）中国語とアラビア語で教育する男子学校である．1980年，馬志信は臨夏中阿学校と臨夏中阿女校両方を創立した．現在，臨夏中阿女校の方が規模が大きく，学生数も多い．

10）コンピュータを教えるA教師へのインタビューによる．

11）「宗教事務条例」は2004年7月7日に国務院第57回常務会議で通過し，2005年3月1日から実施し始めた．そのうち，第二章第七条の内容は次の通りである．宗教団体は国家の関連規定に従って宗教内部資料を出版しても構わない．しかし，宗教出版物は国の出版管理の規定によって取り扱うべきである．宗教内容の出版物は「出版管理条例」の規定に合致していなければならず，しかも次のような内容を含めてはいけない．（一）有神論者と無神論者との関係に悪影響をもたらす内容（二）宗教間の関係や宗教内部の関係に悪影響をもたらす内容（三）有神論者または無神論者を軽視・侮辱する内容（四）宗教の極端主義を宣揚する内容（五）宗教の独立自主原則に違反する内容

12）臨夏市民族宗教事務局の馬志清局長へのインタビューによる．

13）「六信」とは「唯一神アッラー」，「天使」，「天啓の書」，「予言者」，「来世」，「天命」の六つを信仰することである．「五行」とはムスリムとしての五つの信仰実践の形をいう．中国語では「念・礼・斎・課・朝」という．その第一は，信仰告白であり，「アッラーのほかに神はなく，ムハンマドはアッラーの使徒である」という一節を声に出して読み上げることである．その第二は，暁，正午，午後，日没前，夜の1日5回メッカに向かって礼拝を行うことである．また，毎週金曜日には集団礼拝が義務づけられている．

その第三は，ヒジュラ暦 9 月の一ヶ月間の日中に断食することである．この間，成人の信徒は日出から日没までの間何も口にしない．断食の理由としては，恵まれない信者の人々に思いを寄せ，公共の福祉の増進に努める誓いを新たにさせるものと言われている．その第四は，喜捨することである．『クルアーン』では，自己の財を「神の道」に使用し，貧者，旅人，孤児に富を分かち与えることを繰り返し説いている．そしてその結果，「己が心の貧欲」に勝てるとされている．その第五は，一生のうち一回はメッカへの巡礼を行うことである．無事巡礼を果たした者は，氏名の前にハッジの敬称をつけて呼ばれ，尊敬されている．

14）全身を洗い浄めることを大浄といい，男性と交わった時，月経やお産をした後に行う．身体の特定の部分を定められた順序で浄めることを小浄といい，礼拝に先立って水場で行う．

15）中国語の「叩拜」する時の動作とイスラームの礼拝時の動作は同じである．

16）二学年の「思想道徳」の授業に使われている教科書の『ムスリム婦女』p17 ～ p30 参照．

17）二学年の「思想道徳」の授業に使われている教科書の『ムスリム婦女』p42 より．

18）二学年の「思想道徳」の授業に使われている教科書の『ムスリム婦女』p90 ～ p99 より．

19）二学年の「思想道徳」の授業に使われている教科書の『ムスリム婦女』p159 ～ p162 より．

20）二学年の「思想道徳」の授業に使われている教科書の『ムスリム婦女』p139 より．

21）二学年の「思想道徳」の授業に使われている教科書の『ムスリム婦女』p148 より．

22）1988 年に新疆ウイグル自治区ウルムチ市近郊の回族家庭に生まれた．中学校卒業後，三年制芸術専門学校で「コンピュータと広告設計」を二年間学んだが，広告設計についての父親の理解を得られず，父親により無理やり退学された．2005 年の 3 月に親の強要により臨夏中阿女校に入学したが，学習内容に興味を持てなく，学校の制度さえ厳しいため，2005 年 12 月末に学校を辞めるつもりである．コンピュータと広告設計に興味を持っているため，将来はこの関係の仕事をしたいという．

23）http://www.cgedu.net/technologic/030611001.htm（2006 年 6 月 8 日参照）

24）清代の被弾圧や文化大革命時代の悲劇から，回族の知識人たちは「生き残り」と「共存」の道を模索し続けた．ナショナリズムと社会主義の道を国是とする現在の中国国家が少数民族や宗教団体に求める必要最低条件は「愛国主義」と「中国共産党の指導」である．よって，分離主義を助長し，党批判を公然とするようなイスラーム解釈を厳しく戒めていけば，自民族の振興は可能である．それで，「愛国愛教」すなわち，愛国主義に立脚することで国家の公認を得，宗教とエスニシティの「発展」を最大限に要求していくという目標を持って民族振興と国家建設を両立させようとしている．

参考文献

上野千鶴子．2001.『構築主義とは何か』勁草書房.

王建新．2001.「西北地方の回族―経済発展をめぐる民族と宗教の行方」佐々木信彰編『現代中国の民族と経済』世界思想社：210–237.

王建新・新免康．2005.「中国ムスリムの女性教育― 1980 年代以後の状況を中心に」加藤博編『イスラームの性と文化』東京大学出版会：127–151.

王新鳳．2005.「管窺女性主義人類学及其対教育研究的啓示」『貴州民族研究』第一期：142–146.

王正偉．1999.『回族民俗学概論』寧夏人民出版社 .

韓達．1998.『少数民族教育史　第 1 巻』广東教育出版社 .

金仙玉．2006.「清真女学の回族社会における役割と回族女性へ影響―甘粛省蘭州市を事例として―」『ククロス』第 3 号：53–70.

胡雲生．2005.「三重関係互動中的回族認同」『民族研究』第一期：41–56.

坂井定雄．1994.「中国のイスラーム民族は今（上）―モスレム侮辱事件に見る民族・宗教政策」『世界週報』10 月 4 日号：18–23.

澤井充生．2002.「中国の宗教政策と回族の清真寺管理運営制度―寧夏回族自治区銀川市の事例から」『イスラーム世界』59：23–49.

塩尻和子・池田美佐子．2004.『イスラームの生活を知る事典』東京堂出版 .

秦恵彬．1999.『中国伊斯蘭教基礎知識』宗教文化出版社 .

新保敦子．1999.「蒙彊政権におけるイスラーム教徒工作と教育―善隣回民女塾を中心として―」『中国研究月報』53：1–13.

水鏡君・瑪利亜・雅紹克．2002.『中国清真女寺

史』生活・讀書・新知三聯書店 .
鈴木紘司．2004.『イスラームの常識がわかる小辞典』PHP 新書 .
蘇林．2005.『現代中国のジェンダー』明石書店 .
張承志．1994.「中華文明のなかのイスラーム中国」片倉もとこ編『イスラーム教徒の社会と生活』栄光教育文化研究所：153–189.
中田吉信．1985.「中華人民共和国の宗教政策―イスラーム教界の対応を中心に」『レファレンス』2：4–31.
日本イスラーム協会．2002.『新イスラーム事典』平凡社 .
ブハーリー . 牧野信也（訳）．1993.『ハディース：イスラーム伝承集成　上巻』中央公論社 .
馬通．1990.『中国西北伊斯蘭教的基本特徴』蘭州大学出版社 .
松本ますみ．2000.「中国イスラーム新文化運動とナショナル・アイデンティティ」西村成雄編『ナショナリズム―歴史からの接近』（現代中国の構造変動 3）東京大学出版会：99–125.
松本ますみ．2001.「中国西北におけるイスラーム復興と女子教育―臨夏中阿女学と韋州中阿女学を例として―」『敬和学園大学研究紀要』10：145–170.
松本ますみ．2003.「中国のイスラーム新文化運動―ムスリム・マイノリティの生き残り戦略」小松久男・小杉泰編『現代イスラーム思想と政治運動』東京大学出版会：141–165.
馬蘭．2001.『西部忠魂』銀河出版社 .
米寿江・尤佳．2004.『中国伊斯蘭教』五洲伝播出版社 .
三田了一（訳）．1983.『聖クルアーン：日亜対訳注解』日本ムスリム協会 .